



桜花爛漫 わが桜塚——追憶の母校 (画:高11期 太田 直武)

尚和会報

尚和会総会のごあんない

平成12年5月21日（日）

ホテルアイボリーにて（豊中駅東口すぐ ☎06-6849-1111）

- ◆総会……………茜の間 12:00～12:30（受付11:30～）
- ◆立食パーティー……オーキッドホール 12:45～15:00
- ◆アトラクション……●シャンソン歌手 田中幸子
●お楽しみ福引
- ◆会費……………4,000円
('96年以降の卒業者2,000円)

田中幸子（プロフィール）

高校17期卒業、旧姓越田。9年前よりシャンソンの勉強を始め、日本語訳詞を大切にして歌づくりをしている。

昨年、本年と神戸市立博物館地階ホール“午後のシャンソン”的ゲスト出演をはじめとしてライブコンサートに参加している。個人活動と共に友人と女性デュオ“フルフル”を結成し、2000年9月14日（木）「シャンソン de 梅田コマ」（飛天改め）梅田コマ劇場出演の予定。



2000

平成12年5月1日



発行 尚和会

発行責任者 荻野哲男

編集責任者 田中 渡

尚和会報



会長挨拶

尚和会会长

荻野哲男

バブル経済の崩壊以来、わが国では全てのものが閉塞状態にあります。が、長年続いている不況の波からは、今年こそ、そろそろ脱出できるのではないかと、ほのかな期待をもつております。

今年は西暦一〇〇〇年、激動の二十世紀最後の年であります。このミレニアム元年といふ大きな節目を迎え、私達の尚和会も心を新たに出発したいと願っております。

今日、尚和会の前には多くの課題が山積しております。が、次に本年度、重点的に取り組むべき事業について申し述べ、皆様方に一層のご理解とご協力を仰ぎたいと存じます。

尚和会の財政再建の一環として、会報を有料制に踏み切つて、はや、二年目を迎えた。有り難いことに、当初の予想を覆し、二年連続して多額の協力金、年会費（購読料）を頂戴しております。今後の事業計画、予算編成に目処が立ち、大変安堵しております。

これもひとえに、皆様方の温かいご理解とご協力の賜物であると感謝申し上げる次です。

しかしながら、この有料制により将来生じてくるであろうデメリットに対しても、木目の細かい対策を講じることができます。例えば、現在、業者委託をしておりますデータ管理をより正確、確実にするためにも、尚和会にリスクのない業者委託の会員名簿の発行を、現行の十年から五年に一回のサイクルにする等、その一つであると思われます。

今後、コンピュータ、ネットワーク社会の急激な進歩から種々問題が創出していくものと思われます。また、これまでにない構造変革の中、

乗り切るため、鋭意努力して参る所存ですので、より一層のご支援、ご協力をおりたいする次第です。

以上、述べてまいりました財政改革及び活性化について、皆様の忌憚のないご意見ご提言をお寄せ頂ければ幸甚く所存でございます。

尚和会運営も従来の枠にとらわれることなく、変革すべきものは変革し、基盤を安定させ、二十一世紀に備えなければならないと考えております。

同窓会運営も従来の枠にとらわれることなく、変革すべきものは変革し、基盤を立てる所存でございます。もちろん、スクールカラーで仕上げる訳ですが調べますと、屋根には、ワインレッド、ブラウンレッドといつた名が残っており、壁については、シルバーグリーン、エメラルドグリーン、パールグリーンの名前があります。同じような色でもその時の配合で名称が異なるようです。

今後、コンピュータ、ネットワーク社会の急激な進歩から種々問題が創出していくものと思われます。また、これまでにない構造変革の中、乗り切るため、鋭意努力して参る所存ですので、より一層のご支援、ご協力をおりたいする次第です。



平成の大改修

桜塚高校校長

関谷茂紀



平成十二年度を迎えるにあたり、母校の近況をご報告してご挨拶に代えさせていただきます。

昨年末、東京支部長はじめ支部役員の皆様がわざわざ来阪して頂き、本部役員との合同役員会を開催することができます。支部及び尚和会の今後の発展を目指して意思統一を行ったところであります。関東在住の一五〇人の会員を抱える東京支部の発展は、尚和会の活性化に必ずや繋がっていくものと確信しております。

母校は平成九年に創立六十年を迎えて、今年度で六十周年となります。この間、三年目となりました。改築後

ヨツク当時の材質や阪神大震災の影響のためか、昨年八月頃から数回校舎の壁の剥離落下が起こり、応急処理として危険な箇所を全て叩き落としましたが、それでも安心して居れるのが、心許無い事であり生徒諸君の安全確保のため、全面的な大改修となりました。阪神大震災による歴史等も、今回の改修

で補修されるでしょう。また、全面塗装を施しますので改築時に復元されるものと思いまます。もちろん、スクールカラーラーで仕上げる訳ですが調べますと、屋根には、ワインレッド、ブラウンレッドといつた名が残っており、壁については、シルバーグリーン、エメラルドグリーン、パールグリーンの名前があります。同じ

色である教育に取り組むこと、選択制等の普通科（現在、十五校から百三十五校に再編通科については、普通科単独校（現在、百十七校）を七十六校に、専門学科併置か総合選択制等の普通科（現在、十九校）を二十九校に、そして、

専門高校、総合学科高校、全日制単位制高校も計画的に設置していく予定です。

本校の特色づくりを如何にするかは校内検討を早めなければなりませんが、本校生の入学時に抱いていた進路希望が、卒業時に果たせているかが検討の基本になります。

二十一世紀の社会で活躍する生徒諸君が、今後予測される社会に激しい社会の変化の中で、世界を舞台にすることを思えば、在学中に確固たる自

分を築き、十分な知恵を持つて他人と協力する心と、新しくことに挑戦する勇気・創造性を備えることが大切です。

暑い夏には、涼しい環境で講習が出来るという学習環境も考えねばなりません。

尚和会の皆様、今後共に

この支部の今後の事業計画について、意思統一を行ったところでありました。関東在住の一五〇人の会員を抱える東京支部の発展は、尚和会の活性化に必ずや繋がっていくものと確信しております。

これもひとえに、皆様方の温かいご理解とご協力の賜物であると感謝申し上げる次です。

母校は平成九年に創立六年を迎え、今年度で六十周年となります。この間、三年目となりました。改築後

活できる教育の実現に向け

ります。その中で、全日制高校の特色づくりと再編整備の計画は、府立各高校が特

別に、立高校の特色づくりと再編整備するというものです。普

ります。

（校舎改修写真は裏表紙に掲載）

学校支援人材バンク
について

本校は現在約7割弱の生徒の部活動の参加者があり、体育系20クラブ、文科系11クラブに所属して活躍しています。学校の活気の源はなんどいつも教科の授業の他、生徒自らが自主的、自発的に取り組む課外での部活動にあります。本校は狭い施設の上、クラブ数も多くしかも定時制課程の併設で、いたつて活動時間の短い中にも関わらずよく毎日活動しています。野球部は一昨年夏の大坂北大会の準優勝、昨年秋の大会での府下ベスト8位、女子バスケツトボール部、卓球部、陸上競技部の近畿大会出場、吹奏楽部銀賞受賞など輝かしい成績を収めています。生徒の部活動へ熱意に応えるべく、先生方も休日を返上されて引率指導に当つておられます。が、技術指導がすべての部で可能といたします。校内指導が低調となる傾向もあります。

先ごろ府教委は、学校教育活性化のため、「大阪府学校支援人材バンク」「運動部活動外部指導者活用事業」等の制度を設け、学校外の教職免許の有無に関わらず、様々な経験や技術を持つた方の、学校支援事業の講師に登録をして頂き協力を求めておりました。平成十二年度からは授業料値上げ等費用で「学校支援人材バンク制度」を予算的に拡大させ、外部指導者を大幅に採用して、部活動を振興することになりました。

部活動による教育成果は申すまでもなく、高校期にあつては計り知れない意義があり、人間成長や社会性涵養からもきわめて重要です。生徒数減少で学級数も減り、若手教員の新規採用が少ないまま、外部指導者の登用は学校現場の活力の元となり、新しい学校教育の風となっています。国際情勢、異文化交流、環境、医療福祉等の現場での経験者から、直接講義を聴けば高校生はどれほど大きな刺激を受けるかわかりません。文科系クラブにおいても指導者不足のため活動困難な部もありますので、特技を生かしていくため是非講師として登録して頂きたいものであります。

おまちしております。

定時制課程教頭 宮西 重久

平成十一年度は、募集定員を越える百三十三名の志願者があり、一年生の在籍者が百四十八名、全校生徒数三百五十九名のスタートとなりました。全国的に少子化が進む現在、本校は府下の定時制課程の普通科の中で最大規模の生徒数になっています。生徒もさまざままで、最高年齢は七十六歳、六十歳以上の生徒が十名在籍しています。これは定時制教育が生涯教育を担っている一端であると思います。また、タイ、インドネシア、中国、韓国、ブラジル帰国子女等外国籍の生徒も在籍し、国際色豊かな教育環境と言えます。まさに、教育のバリアーフリーの時代を迎えたと言えるでしょう。そして、「入れる学校」から「選べる学校」への時代になつて来たとも言われますが、定時制教育の果たす役割も大きいと思います。二十一世紀を間近にし、大きく日本の教育は質的に変革しつつあると言えます。本校も生きる力の育成、人権教育の向上等を柱とし、生徒にとって最高の自分探しの場で、希望が持てる学校づくりを進めて行きたいと思っています。

な足あととして、男子体育クラブの大活躍の一言に尽きます。サッカーチームは、昨年の秋のサッカーフェスティバルの大会以来、連勝を続けています。今年度、定通大坂高校総体で優勝し、静岡の全国大会に出場、一勝をしました。野球部も秋の定通大坂高校総体で念願の優勝旗を手にすることができ、近畿大会へ出場しました。そして、バスケットボール部も秋の定通大坂高校総体で優勝し、近畿大会で一勝をすることができました。そこで、本校は大阪高体連より、平成十一年度の総合優勝校（男子一位）として表彰されました。スポーツを通して、学校生活に目標を持ち、大きな舞台で活躍してくれた生徒たちはすばらしい経験ができたと思います。最近の若い世代の中に、労働観や人生観の希薄を感じるとよく耳にします。学校生活においても自分の目標を持つことは非常に大切です。今年の新入生の中に、クラブ活動を通して目標ができ、明るい元気になり、自信と集中力がつき、人に対しても積極的に関われるようになった生徒がいました。定時制の良さは個々の目標に向かって、自分のリズムやペースでやっていく環境かもしません。不透明な時代であるからこそ、個々の生徒が積極的な人生観を持つて学校生活を過していきます。

てほしいと願っています。
最後に、七十四名（男子五十三・女子二十一）が卒業し尚和会のお仲間にいれました。ただくことになりました。よろしくお願ひします。

就任のご挨拶

教頭 鳥越 克明

この度、四月一日付で渡邊宏前教頭の後任として太阪府立山田高等学校より赴任してきました鳥越（とりがえ）でございます。創立六年目を迎える伝統ある本校に勤務出来ることは、誠に光栄と存じます。

今までの勤務校は、二校とも新設高校で、特に山田高等学校では新設初年度より十六年間勤務して参りました。この度の勤務校はすでに六年を経た伝統校でかなり様子が違っているように感じます。また、学校周辺の様子も前任校の千里丘陵の田舎の風情を残す学校と違い、商店街の中を通つての通勤となり新鮮な感じがします。

さて、一〇〇〇年という年を迎へ、教育改革の実践がいよいよ始まろうとしています。教育課程審議会答申を受け、完全学校週五日制の下で、「ゆとり」の中で「特色ある教育」を開拓し、生徒に自ら学び自ら考える「生きる力」を育成することを目指した新

(1) 豊かな人間性や社会性、国際社会に生きる日本人としての自覚を育成すること。

(2) 自ら学び、自ら考える力を育成すること。

(3) ゆとりのある教育活動を開催する中で、基礎・基本の確実な定着を図り、個性を生かす教育を充実すること。

(4) 各学校が創意工夫を生かし特色ある教育、特色ある学校づくりを進めること。

などが、改訂の趣旨として上げられています。

桜塚高校でもこの趣旨にのつとった教育課程の編成が必要であると考えます。私も微力ながら貢献できればと考えております。

また、近年は学校に対する府民の皆様の目が厳しくなつております。府民の信頼に応えるためにも開かれた学校づくりをしていく必要があると考えます。伝統の中に新風を吹き込み、風通しのよい学校にすることが私に与えられた使命かと考へております。

まだまだ不慣れなため十分な対応をとれないこともありますですがよろしくお願ひ申し上げます。

◆尚和会会報について◆

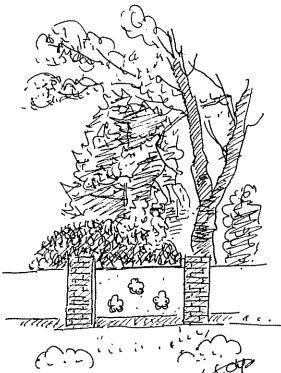
高四期 清水 美範

尚和会年会費について

昨年振込用紙が会報とともに送付されてきたときは、まあ一年先なのでそのうちに振り込もうと思いながら失念してしまいました。今年は尚和会報がこなかつたなあと気がついたのは九月になつてからです。振込の督促状もこなかつたし、このまま母校との絆が切れてしまふのかと考えた時、慄然としたものです。

料だつたこともあり、会報と一緒に督促状をいれるという方法もとれたのではないかと、一考を願う次第です。そんなどことは検討済みといわれていますが、カラー印刷を止め紙質を落とす。封筒への封入を止め第一種郵便から開封の第三種郵便で送るなど検討する余地がある気も致します。

ついでに一会员として多少の意見を言わせていただきます。



振込用紙について

会報年会費振込用紙と尚和会協力金振込用紙と同一用紙

紙といるのは抵抗があります。協力金ゼロのまま振り込むのは勇気があります。振込が少ないので、そのうちに協力金もと思いながら後回しになります。

なつているのが真相のよう気がします。

協力金について

協力金ですか、金額はご芳志のはずです。一、〇〇〇円でも五〇〇円でもいいはずです。だからといってかが一、〇〇〇円や五〇〇円で金額別に会報に名前が掲載されるのも迷惑なことです。人の一万円より一〇〇人で〇〇、〇〇〇円のほうが多いことは分かりきったことであります。「協力金ご芳志名」として、卒業年度別に名前だけ掲載する方法もあります。実際そのような例も沢山あります。ご一考下さい。

平成十二年度 尚和会役員

会計監査	会計	副会長	会長
高14期 吉利	高19期 志賀	定7期 岡島	高6期 荻野
高19期 吉利	小合	高11期 田中	高15期 吉田
高19期 吉利	奥田	高11期 吉田	高19期 大畠
正幸 裕理子 (新任)	孝子 順子 (留任)	和久 渡 (留任)	勇 哲男 (新任) (留任)
	敏輝 (新任)	光昭 (留任)	

◇学校行事案内◇		東京支部長
文化祭	体育祭	高7期 井上 真一 (留任)
文化祭	体育祭	
十月十五日 (金)	九月二十一日 (木)	六月 八日 (木)
十六日 (木)	十七日 (木)	九月十六日 (土)

京、随一と謳われた伝説の尼院 が、装いを新たにここ洛西に！

個人で グループで 団体で

古都散策の憩いの場として
古都散策の憩いの場として
兼好法師の双ヶ岡を間に望むホールで
徒然草と共に学びし旧友との語らいをなさいませんか

徒然草と共に学びし旧友との語らいをなさいませんか

5分から 15分で散策できます

(交通機関)

●京福電鉄四条大宮駅より
(帷子の辻りかえ) 妙心寺駅下車1分

●市バス⑩京阪三条、四条河原町より

市バス⑪JRバス、JR京都駅より

妙心寺駅前下車徒歩2分

●無料駐車スペース40台

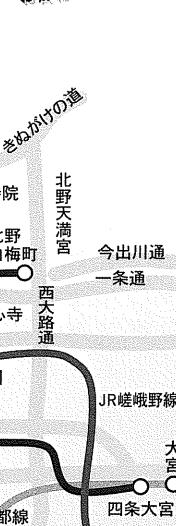
※ご希望の方にはパンフレットをお送りします

TEL : 075-465-0571

FAX : 075-465-0572

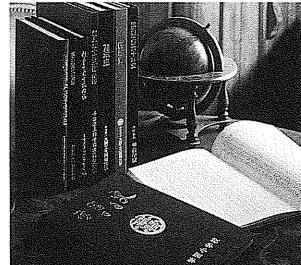
執事 菅原慶次 (高校4期)

写真、漆器の絵付けも
お気軽にどうぞ



同窓会・学校のトータルパートナー／株式会社廣済堂

母校の歴史的資産を築きます。



栄えある周年を語る記念誌と、同窓会名簿の制作は廣済堂におまかせください。

郵便物に関するあらゆるお手伝いも、年間500万通の投函実績を誇る、当社のマーリングサービスをご利用ください。

<当社で活躍中の桜塚高OBの方々>

生産部美術部作業課
秋田 隆博(昭和43年卒)
生産部機械部次長
古川 光成(昭和50年卒)
物流課主任
大塚 吉宣(昭和50年卒)
テクニカル創作部第三課DTP係係長
平野 宗栄(昭和55年卒)

媒体開発部出版事業課営業係主任
細谷 浩介(昭和55年卒)

営業部第二部営業第五課課長代理
藤林 宏司(昭和59年卒)

物流課課長
中田 信一(昭和61年卒)

営業第一部営業第二課課長
上野 弘美(昭和62年卒)

株式会社 廣済堂

大阪事業部
〒560-8567 豊中市蛍池西町2-2-1

電話 06-6855-1100(代)

E-mail:m-osaka@kosaido-net.co.jp

鐘のひびき

酒とゴルフと仕事と

故菊川先生を悼む

元全日本制教頭 岡田 寿一

平成12年5月1日

尚和会会報

菊川暎人先生が亡くなられた。やがて一年近い。日頃から人一倍お元気な方で、突然逝かれるとは思いもしなかった。ご退職の年に桜塚高校が創立五十周年を迎え、同窓の皆様の、古き良き時代への熱い思いが盛り上がり、記念事業としてかつての名園を整備復活することになった。この計画の実現に傾注しておられた頃の先生の姿が今も印象に残っている。今四季折々の風趣を学び舎に添えている現在の憲風苑・恩露園は、尚和会の大きなお力添えの賜物であるが、又、先生の最後の大仕事であり、言わば先生の遺産である。

仕事の場を離れると、時に軽口を好まれ、その軽妙な語り口は酒が入ると一段と冴え、他の及ぶところでなかつた。先生ほど楽しく嬉しく酒を飲む方を知らない。生来戸の私などはただ羨ましく思っていた。酒を介し、ゴルフには縁がなく、ご一緒に四年間、先生からすれば

菊川暎人先生が亡くなられた。やがて一年近い。日頃から人一倍お元気な方で、突然逝かれるとは思いもしなかった。ご退職の年に桜塚高校が創立五十周年を迎え、同窓の皆様の、古き良き時代への熱い思いが盛り上がり、記念事業としてかつての名園を整備復活することになった。この計画の実現に傾注しておられた頃の先生の姿が今も印象に残っている。今四季折々の風趣を学び舎に添えている現在の憲風苑・恩露園は、尚和会の大きなお力添えの賜物であるが、又、先生の最後の大仕事であり、言わば先生の遺産である。

菊川先生は、お元気そのものの方であった。急なことに驚いて病床に見舞つたときも、ふと意識がもどり、身を起そとされたのをあわてて押し留めたくらいたつた。しかし、回復されるだろうといふ安心は裏切られ、その後は昏睡がつづいて戻らなかつた。未だに人なつこい笑顔がどこから立ち現れそう安心がする。菊川先生とは、終始、ゴルフのご縁があった。

菊川先生は、お元気そのものの方であった。急なことに驚いて病床に見舞つたときも、ふと意識がもどり、身を起そとされたのをあわてて押し留めたくらいたつた。しかし、回復されるだろうといふ安心は裏切られ、その後は昏睡がつづいて戻らなかつた。未だに人なつこい笑顔がどこから立ち現れそう安心がする。

菊川先生は、お元気そのものの方であった。急なことに驚いて病床に見舞つたときも、ふと意識がもどり、身を起そとされたのをあわてて押し留めたくらいたつた。しかし、回復されるだろうといふ安心は裏切られ、その後は昏睡がつづいて戻らなかつた。未だに人なつこい笑顔がどこから立ち現れそう安心がする。

菊川先生は、お元気そのものの方であった。急なことに驚いて病床に見舞つたときも、ふと意識がもどり、身を起そとされたのをあわてて押し留めたくらいたつた。しかし、回復されるだろうといふ安心は裏切られ、その後は昏睡がつづいて戻らなかつた。未だに人なつこい笑顔がどこから立ち現れそう安心がする。

うか。

別れを告げる為だったのだろう。

上昇したと話されていた教頭、校長時代の先生に誘われて、私はゴルフを始めた。当方は定時制勤務で午前中がまるまる空いていたからである。

当時、先生は人前で「ゴルフの腕前だけは俺のほうが上だ」と、よく呵々大笑いされていましたが、実際にそれが世紀末まで生き抜かれたのである。ご身辺にも公私にわたって山もあり、谷もあつたに違いないが、ほん

ただご冥福を祈るばかりである。

菊川先生とゴルフのこと
元定期制教頭 向達 督

死を悼む 我らがターザンのこと

高四期 菅原慶次

林一雄君が昨年秋あの世へ旅立つた。奥さんの希望もあり皆に彼の病状を話したのは、手術後七ヶ月、十月三日の同期会の席上だった。翌晩早速、松井、中右と共に彼を見舞つた時は、それ迄になく意識がはつきりしている様に見え、涙が光っていたのは我々を歓迎する意思表示だったのだろうか？

の我々の会話は弾んでいた。しかし翌朝奥さんから電話があつた。「主人が五時過ぎ息を引き取つた」と。あの東の間の意識回復は我々に最期の

大学卒業後間もなく家業を継ぎ、一時は大阪ガスの代表的な販売店にまで築きあげたが、息子さん一人共自分の道を歩ませ、四年前決断よく廃業、親分肌の彼は従業員全員再就職させ、一昨年秋、跡地に十一階建ての賃貸マンションを完成した。長い間、子育てと経理で苦労された奥さんのお気持ちは別として、彼なりの満足できる人生であつたと思う。

あの高校時代、誰からも愛され、活力溢れた彼の、あ

平成十一年物故者名

(平成十二年一月一日～十二月三十日まで)

女五期	楠崎 和代
古野 順子 (林)	11 11 5 3
笹川 一雄	11 10 5
高七期 今立 広子 (前川)	11 11 1 26
高一期 福島 行彦	11 10 7
高一期 深田 穎則	11 9
高一期 林 一雄	11 11 1 29
高一期 古野 順子 (林)	11 11 5 3
高一期 笹川 一雄	11 10 5
高一期 高七期 今立 広子 (前川)	11 11 1 26
高一期 福島 行彦	11 10 7
高一期 深田 穎則	11 9
高一期 林 一雄	11 11 1 29
高一期 古野 順子 (林)	11 11 5 3
高一期 笹川 一雄	11 10 5
高一期 高七期 今立 広子 (前川)	11 11 1 26
高一期 福島 行彦	11 10 7
高一期 深田 穎則	11 9
高一期 林 一雄	11 11 1 29
高一期 古野 順子 (林)	11 11 5 3
高一期 笹川 一雄	11 10 5
高一期 高七期 今立 広子 (前川)	11 11 1 26
高一期 福島 行彦	11 10 7
高一期 深田 穎則	11 9
高一期 林 一雄	11 11 1 29
高一期 古野 順子 (林)	11 11 5 3
高一期 笹川 一雄	11 10 5
高一期 高七期 今立 広子 (前川)	11 11 1 26
高一期 福島 行彦	11 10 7
高一期 深田 穎則	11 9
高一期 林 一雄	11 11 1 29
高一期 古野 順子 (林)	11 11 5 3
高一期 笹川 一雄	11 10 5
高一期 高七期 今立 広子 (前川)	11 11 1 26
高一期 福島 行彦	11 10 7
高一期 深田 穎則	11 9
高一期 林 一雄	11 11 1 29
高一期 古野 順子 (林)	11 11 5 3
高一期 笹川 一雄	11 10 5
高一期 高七期 今立 広子 (前川)	11 11 1 26
高一期 福島 行彦	11 10 7
高一期 深田 穎則	11 9
高一期 林 一雄	11 11 1 29
高一期 古野 順子 (林)	11 11 5 3
高一期 笹川 一雄	11 10 5
高一期 高七期 今立 広子 (前川)	11 11 1 26
高一期 福島 行彦	11 10 7
高一期 深田 穎則	11 9
高一期 林 一雄	11 11 1 29
高一期 古野 順子 (林)	11 11 5 3
高一期 笹川 一雄	11 10 5
高一期 高七期 今立 広子 (前川)	11 11 1 26
高一期 福島 行彦	11 10 7
高一期 深田 穎則	11 9
高一期 林 一雄	11 11 1 29
高一期 古野 順子 (林)	11 11 5 3
高一期 笹川 一雄	11 10 5
高一期 高七期 今立 広子 (前川)	11 11 1 26
高一期 福島 行彦	11 10 7
高一期 深田 穎則	11 9
高一期 林 一雄	11 11 1 29
高一期 古野 順子 (林)	11 11 5 3
高一期 笹川 一雄	11 10 5
高一期 高七期 今立 広子 (前川)	11 11 1 26
高一期 福島 行彦	11 10 7
高一期 深田 穎則	11 9
高一期 林 一雄	11 11 1 29
高一期 古野 順子 (林)	11 11 5 3
高一期 笹川 一雄	11 10 5
高一期 高七期 今立 広子 (前川)	11 11 1 26
高一期 福島 行彦	11 10 7
高一期 深田 穎則	11 9
高一期 林 一雄	11 11 1 29
高一期 古野 順子 (林)	11 11 5 3
高一期 笹川 一雄	11 10 5
高一期 高七期 今立 広子 (前川)	11 11 1 26
高一期 福島 行彦	11 10 7
高一期 深田 穎則	11 9
高一期 林 一雄	11 11 1 29
高一期 古野 順子 (林)	11 11 5 3
高一期 笹川 一雄	11 10 5
高一期 高七期 今立 広子 (前川)	11 11 1 26
高一期 福島 行彦	11 10 7
高一期 深田 穎則	11 9
高一期 林 一雄	11 11 1 29
高一期 古野 順子 (林)	11 11 5 3
高一期 笹川 一雄	11 10 5
高一期 高七期 今立 広子 (前川)	11 11 1 26
高一期 福島 行彦	11 10 7
高一期 深田 穎則	11 9
高一期 林 一雄	11 11 1 29
高一期 古野 順子 (林)	11 11 5 3
高一期 笹川 一雄	11 10 5
高一期 高七期 今立 広子 (前川)	11 11 1 26
高一期 福島 行彦	11 10 7
高一期 深田 穎則	11 9
高一期 林 一雄	11 11 1 29
高一期 古野 順子 (林)	11 11 5 3
高一期 笹川 一雄	11 10 5
高一期 高七期 今立 広子 (前川)	11 11 1 26
高一期 福島 行彦	11 10 7
高一期 深田 穎則	11 9
高一期 林 一雄	11 11 1 29
高一期 古野 順子 (林)	11 11 5 3
高一期 笹川 一雄	11 10 5
高一期 高七期 今立 広子 (前川)	11 11 1 26
高一期 福島 行彦	11 10 7
高一期 深田 穎則	11 9
高一期 林 一雄	11 11 1 29
高一期 古野 順子 (林)	11 11 5 3
高一期 笹川 一雄	11 10 5
高一期 高七期 今立 広子 (前川)	11 11 1 26
高一期 福島 行彦	11 10 7
高一期 深田 穎則	11 9
高一期 林 一雄	11 11 1 29
高一期 古野 順子 (林)	11 11 5 3
高一期 笹川 一雄	11 10 5
高一期 高七期 今立 広子 (前川)	11 11 1 26
高一期 福島 行彦	11 10 7
高一期 深田 穎則	11 9
高一期 林 一雄	11 11 1 29
高一期 古野 順子 (林)	11 11 5 3
高一期 笹川 一雄	11 10 5
高一期 高七期 今立 広子 (前川)	11 11 1 26
高一期 福島 行彦	11 10 7
高一期 深田 穎則	11 9
高一期 林 一雄	11 11 1 29
高一期 古野 順子 (林)	11 11 5 3
高一期 笹川 一雄	11 10 5
高一期 高七期 今立 広子 (前川)	11 11 1 26
高一期 福島 行彦	11 10 7
高一期 深田 穎則	11 9
高一期 林 一雄	11 11 1 29
高一期 古野 順子 (林)	11 11 5 3
高一期 笹川 一雄	11 10 5
高一期 高七期 今立 広子 (前川)	11 11 1 26
高一期 福島 行彦	11 10 7
高一期 深田 穎則	11 9
高一期 林 一雄	11 11 1 29
高一期 古野 順子 (林)	11 11 5 3
高一期 笹川 一雄	11 10 5
高一期 高七期 今立 広子 (前川)	11 11 1 26
高一期 福島 行彦	11 10 7
高一期 深田 穎則	11 9
高一期 林 一雄	11 11 1 29
高一期 古野 順子 (林)	11 11 5 3
高一期 笹川 一雄	11 10 5
高一期 高七期 今立 広子 (前川)	11 11 1 26
高一期 福島 行彦	11 10 7
高一期 深田 穎則	11 9
高一期 林 一雄	11 11 1 29
高一期 古野 順子 (林)	11 11 5 3
高一期 笹川 一雄	11 10 5
高一期 高七期 今立 広子 (前川)	11 11 1 26
高一期 福島 行彦	11 10 7
高一期 深田 穎則	11 9
高一期 林 一雄	11 11 1 29
高一期 古野 順子 (林)	11 11 5 3
高一期 笹川 一雄	11 10 5
高一期 高七期 今立 広子 (前川)	11 11 1 26
高一期 福島 行彦	11 10 7
高一期 深田 穎則	11 9
高一期 林 一雄	11 11 1 29
高一期 古野 順子 (林)	11 11 5 3
高一期 笹川 一雄	11 10 5
高一期 高七期 今立 広子 (前川)	11 11 1 26
高一期 福島 行彦	11 10 7
高一期 深田 穎則	11 9
高一期 林 一雄	11 11 1 29
高一期 古野 順子 (林)	11 11 5 3
高一期 笹川 一雄	11 10 5
高一期 高七期 今立 広子 (前川)	11 11 1 26
高一期 福島 行彦	11 10 7
高一期 深田 穎則	11 9
高一期 林 一雄	11 11 1 29
高一期 古野 順子 (林)	11 11 5 3
高一期 笹川 一雄	11 10 5
高一期 高七期 今立 広子 (前川)	11 11 1 26
高一期 福島 行彦	11 10 7
高一期 深田 穎則	11 9
高一期 林 一雄	11 11 1 29
高一期 古野 順子 (林)	11 11 5 3
高一期 笹川 一雄	11 10 5
高一期 高七期 今立 広子 (前川)	11 11 1 26
高一期 福島 行彦	11 10 7
高一期 深田 穎則	11 9
高一期 林 一雄	11 11 1 29
高一期 古野 順子 (林)	11 11 5 3
高一期 笹川 一雄	11 10 5
高一期 高七期 今立 広子 (前川)	11 11 1 26
高一期 福島 行彦	11 10 7
高一期 深田 穎則	11 9
高一期 林 一雄	11 11 1 29
高一期 古野 順子 (林)	11 11 5 3
高一期 笹川 一雄	11 10 5
高一期 高七期 今立 広子 (前川)	11 11 1 26
高一期 福島 行彦	11 10 7
高一期 深田 穎則	11 9
高一期 林 一雄	11 11 1 29
高一期 古野 順子 (林)	11 11 5 3
高一期 笹川 一雄	11 10 5
高一期 高七期 今立 広子 (前川)	11 11 1 26
高一期 福島 行彦	11 10 7
高一期 深田 穎則	11 9
高一期 林 一雄	11 11 1 29
高一期 古野 順子 (林)	11 11 5 3
高一期 笹川 一雄	11 10 5
高一期 高七期 今立 広子 (前川)	11 11 1 26
高一期 福島 行彦	11 10 7
高一期 深田 穎則	11 9
高一期 林 一雄	11 11 1 29
高一期 古野 順子 (林)	11 11 5 3
高一期 笹川 一雄	11 10 5
高一期 高七期 今立 広子 (前川)	11 11 1 26
高一期 福島 行彦	11 10 7
高一期 深田 穎則	11 9
高一期 林 一雄	11 11 1 29
高一期 古野 順子 (林)	11 11 5 3
高一期 笹川 一雄	11 10 5
高一期 高七期 今立 広子 (前川)	11 11 1 26
高一期 福島 行彦	11 10 7
高一期 深田 穎則	11 9
高一期 林 一雄	11 11 1 29
高一期 古野 順子 (林)	11 11 5 3
高一期 笹川 一雄	11 10 5
高一期 高七期 今立 広子 (前川)	11 11 1 26
高一期 福島 行彦	11 10 7
高一期 深田 穎則	11 9
高一期 林 一雄	11 11 1 29
高一期 古野 順子 (林)	11 11 5 3
高一期 笹川 一雄	11 10 5
高一期 高七期 今立 広子 (前川)	11 11 1 26
高一期 福島 行彦	11 10 7
高一期 深田 穎則	11 9
高一期 林 一雄	11 11 1 29
高一期 古野 順子 (林)	11 11 5 3
高一期 笹川 一雄	11 10 5
高一期 高七期 今立 広子 (前川)	11 11 1 26
高一期 福島 行彦	11 10 7
高一期 深田 穎則	11 9
高一期 林 一雄	11 11 1 29
高一期 古野 順子 (林)	11 11 5 3
高一期 笹川 一雄	11 10 5
高一期 高七期 今立 広子 (前川)	11 11 1 26
高一期 福島 行彦	11 10 7
高一期 深田 穎則	11 9
高一期 林 一雄	11 11 1 29
高一期 古野 順子 (林)	11 11 5 3
高一期 笹川 一雄	11 10 5
高一期 高七期 今立 広子 (前川)	11 11 1 26
高一期 福島 行彦	11 10 7
高一期 深田 穎則	11 9
高一期 林 一雄	11 11 1 29
高一期 古野 順子 (林)	11 11 5 3
高一期 笹川 一雄	11 10 5
高一期 高七期 今立 広子 (前川)	11 11 1 26
高一期 福島 行彦	11 10 7
高一期 深田 穎則	11 9
高一期 林 一雄	11 11 1 29
高一期 古野 順子 (林)	11 11 5 3
高一期 笹川 一雄	11 10 5
高一期 高七期 今立 広子 (前川)	11 11 1 26
高一期 福島 行彦	11 10 7
高一期 深田 穎則	11 9
高一期 林 一雄	11 11 1 29
高一期 古野 順子 (林)	11 11 5 3
高一期 笹川 一雄	11 10 5
高一期 高七期 今立 広子 (前川)	11 11 1 26
高一期 福島 行	

同期会告白

一〇〇〇年記念
同期の集まりを

高五期会 有志

高七期生の皆様へ
2000ANNIVERSARY45
今世紀最後の年

素晴らしい記念の年に十五周年を迎えることが出来ますことは本当に喜ばしい事と思います多くの人達が集い過去のこと、未来の夢を語り合い楽しい一時を過ごそうではありませんか。

多數のご参加をお待ちしております。多くの人が痛みつけられた時代とも言えます。二〇〇〇年は戦争、高度成長と不況など個人が痛みつけられた時代とも言えます。二〇〇〇年は『心の時代』に立ち返るべきとも言われています。『心の時代』のスタートに相応しい五期会を開きませんか。

平成十二年八月五日（土）午後一時～三時

日時

会場 ホテル モントレー

通信費 一〇、〇〇〇円

七期会理事 伊藤 光弥

中川 光昭 林下由美子 京子 機

関東・東京エリア
高校七期・同期会開催

日時

二〇〇〇年五月十三日（土）十二時～十五時

場所 港区南青山五丁目一〇

N H K 青山荘
電話三三四〇一三二二（代）
会費制 別途案内あり

還暦からの十年

雑感

空の下、三々五々と連れだつ
雨上がりのぬける様な青古希の記念旅行で私達は、
また何か新しい発見をする事
でしょ。そしてその事がま
たこれから生きる道標とな
り、勇気となつて自分を支え
てくれる事と信じます。一人
でも多くの人が、この旅行に
参加できて、幸せを分かち合
える様にと願っています。七期同窓会発起人一同
事務所登録を済ませていた私
既に友人の薦めで建築士
の非常勤講師など、特に熱心
にお勧め戴いた。昨年迄で身辺の懸案事項
を次々と片付けることができ
たので、これで二毛作日は終
わりとし、今年からは心機一新しいミレニアム（千年
紀）を皆様方はそれぞれ色々
な思いを抱いて迎えられたこと
は、戦争、高度成長と不況な
ど個人が痛みつけられた時代
とも言えます。二〇〇〇年は
『心の時代』に立ち返るべき
とも言われています。『心の
時代』のスタートに相応しい
五期会を開きませんか。差し当たり五月二十一日
の尚和会総会に、出来るだけ
多くの皆様にお集まり戴きご
相談したいと思います（ホテ
ルアイボリーにて正午より
会費要）。お気楽にご遠慮なくお立
ち寄り下さい。

（文責 宮口一郎）

て、私達は明治村の中を散策
して居りました。平成三年の
秋のこと。それは私達の
還暦記念旅行でした。
あれから十年、来年は古
希を迎える年となります。還
暦の時と同じく、再び記念旅
行をしてほしいと云う声が上
がり、只今準備段階に入つて
います。振り返ればこの十年間、
人々を取り巻む環境は徐々に
徐々にそしてまたはある日
突然に変貌して、月日は流れ
ていきました。生への万能性に賭け、病
と戦いながら力尽きた人、最
愛の家族との別離、逆縁の気
情。若い時と違つて、明るい
話題が数少なくなつた昨今で
すが、それでも殆どの人は明
るく前向きに、精一杯生きて
居られます。もう三十年以上になる
でしようか。毎年欠かさずには
同期会を催している訳ですが、
今を重ねる毎に同期の
人々の素晴らしいところを再確認
し、この人達と友人である事
に誇らしさを感じるので
す。古希の記念旅行で私達は、
また何か新しい発見をする事
でしょ。そしてその事がま
たこれから生きる道標とな
り、勇気となつて自分を支え
てくれる事と信じます。一人
でも多くの人が、この旅行に
参加てきて、幸せを分かち合
える様にと願っています。

人生三毛作

高五期 宮口 一郎

先日のテレビ番組で「人

生は二毛作三毛作」というニ
ュースキヤスターの発言が耳
に入った。定年退職後「第二の人生」
という言葉を見聞きすること
が多かつたが、成る程三毛作
もあるのだと、何となく納得
した。五年前の退職の挨拶状に、
当分休養し充電期間としたい
と付記したが、四ヶ月後の阪
神大震災による半壊家屋の自
宅再建に専念するうちに、予
想外に長い充電期間になつて
しまつた。その間ある会合の席で、
某先輩に「何か世の中に貢献
することをやつてるか」と何
気無く問われ答えに窮した。成る程年後の時間は、
自由な自分の為の時間ではあ
るが、今まで受けた様々な恩
恵に対し、いくらかでもお返
しができれば有意義に過せ、生
きながら大阪府の「被災建築
物応急危険度判定士」の認定
とした活力にあやかり、遅ま
きながら大阪府の「被災建築
物応急危険度判定士」の認定
を受け、何時の日かの思ひぬ
災害に備えるのが精一杯であ
った。私は建築士事務所登録を
勧めて呉れた友人が、自らは
震災後応急危険度判定のボラ
ンティアに奔走する生き生き
とした活力にあやかり、遅ま
きながら大阪府の「被災建築
物応急危険度判定士」の認定
を受け、何時の日かの思ひぬ
災害に備えるのが精一杯であ
った。そして、組織的動きに入
り込むのは不得手だが、せめ
て日常身近な小さな親切を生
活規範に取り込むよう心掛け
ることにしている。新しく仕事については、
色々な方からお説いを受けて
いた。中でも三年前に亡くな
った高四期の鈴鹿常雄氏から
は、建設系専門学校の幾何学の非常勤講師など、特に熱心
にお勧め戴いた。既に友人の薦めで建築士
の非常勤講師など、特に熱心
にお勧め戴いた。型に変わり、制服に憧れて、
桜塚を希望する方も多いと聞
きます。この二十数年間、母
校の制服の販売をさせて頂く
限り、高校生活に胸を躍
らせた事が、夢の様です。そ
れから数年後、現在のスケは、併行して諸々の身辺整理
中で、思考の切り替えがどう
しても出来ずお断りした。そ
のうち当の専門学校の先生か
らも電話戴いた。その頃既に鈴鹿氏は体調
を崩しておられ入退院を繰り
返されていた様で、翌年四月
終に幽明の人となられた。生は二毛作三毛作」というニ
ュースキヤスターの発言が耳
に入った。今年も桜塚を目指して、
多くの若い方達が、希望に胸
をふくらませ、合格発表を、
待ち望んでおられた事と思い
ます。私達は、六、三、三制
になって、始めての高校受験
で、五教科のアチーブメン
トテストを受け、内申書と答
案用紙の結果のみで、希望校
に送られ、発表の日を待つ変
則的な受験がありました。当時は紺地に緑色のリボ
ンとライン入りのセーラー服
で、男子は黒の詰衿服。前か
ラ憧れていた制服を着た時
は、合格の喜びで、新しいク
ラスマイトの方達と始まつた
ばかりの、高校生活に胸を躍
らせた事が、夢の様です。そは、合格の喜びで、新しいク
ラスマイトの方達と始まつた
ばかりの、高校生活に胸を躍
らせた事が、夢の様です。そ転、人との縁を大切にしつ
つ、新たな発見と感動の心の
糧にして、悔いの無い三毛作
目を過したいと思っている。桜塚高校入学、
五十年目の春
高五期 北之坊 英美子

高五期 桜塚 英美子

高五期 桜塚 英美子

同期会報告

高女一期生だより

林 秀美
野口 初子
中島 文子

平成十一年十月三日（日）
宝塚南口の「宝塚荘」に於いて、四十七名出席のもとに一期生会を開催しました。朝は生憎の小雨でしたが、定刻前にはや穰様も好転、先ずは安心しました。

元気そうに見えて病気の一つや二つを抱えているのが当たり前な高齢となつた私たち——一、三日前には出席予定者が（体調悪しく）欠席する旨の電話が相次ぎました。

随分朝早く到着された遠来の友もあり、名残惜しさにこの夜宝塚荘に宿泊、近くに次会、三次会とお楽しみは尽きなかつたようです。

会費は格安、お料理も美味しい、会場は近場で解りやすく、幹事一同本当に嬉しく思いました。先生方はご高齢でもあります。



当日、杖をつき、あるいはご家族に付き添われて現れた友の姿に胸がつきました。皆さん驚かれたのは、平成十年十月の同期会以後、わずか一年の間に六名も物故者となられたことで、ご冥福を祈つて黙祷を捧げ、相集うことのできた私たちはお互いに健健康第一にとの挨拶と共に乾杯しました。

ガラス越しの庭の木立が美しい椅子席の部屋に、心遣いのこもった年寄り向きの懐石料理が並べられ、席順に自己紹介をしながら、よく食べ、よく飲み、且つ談笑しつつ楽しく賑やかな時間が流れ、大いに盛り上りました。

高女時代の校歌を齊唱し、写真撮影も済み、ティータイムに入りますと、宝塚名物炭酸煎餅をふら提げてボツボツ帰り支度を始める向きもありましたので、「張りのある明るい日常を心がけると共に、一年後の再会を確約しましょう」と結んで散会しました。



高女四期生会報告

大江 悅子
稻益智恵子
桑江美紗子

平成十一年六月四日、大阪市北区のウエスティンホテル大阪内の日本料理レストラン「はなの」で同期会を行いました。

東京からも一名御出席頂き、三十八名の方達が、次々に運ばれる日本料理に舌鼓を打ち乍ら、おしゃべりが四時半に統きました。

一ヶ月前の五月に懸命な打ち乍ら、おしゃべりが四時半に統きました。

（旧姓藤井）様、古銭（旧姓高橋）様、角山（旧姓美安）様にお引き受け戴きました。

会員出席者 五十一名

（初参加者十七名）

十三時 下船
十三時十分 記念撮影 四

階ホテル写真室

十三時三十分 茶話会

十二階バイシーズの間
ケーキセブトプラスメロ

十六時 解散（三十分钟延長）

さざつと右記のとおりです。

大川船上よりの景色良し。
またバイシーズからの眺望素晴らしく、終わりに全員で旧校歌を齊唱し、盛況の裡にお開きとなりました。

お住まいも遠方なのでご招待は差し控えましたが、写真に手紙を添えて郵送させていたきましたことを申し添えます。

が亡くなられたとの訃報は、七十を過ぎた私たちにとっては非常に胸が痛む思いでした。

来年の出会いまでくれぐれも健康に留意して一日一日大切に過して行きたいと、切に願いながら散会しました。

来季の幹事さんは、杉原

（旧姓藤井）様、古銭（旧姓高橋）様、角山（旧姓美安）様にお引き受け戴きました。

追 尚和会へのご協力金有り難うござります。

同期の絆を確かめ合い、「ますます青春」した一日でした。

幹事一同
ミレニアム 竜のまつり
と 古稀の宴

幹事一同

追 尚和会へのご協力金有り難うございます。

同期の絆を確かめ合い、「ますます青春」した一日でした。

幹事記

とした村上亮先生に柔軟体操を指導していただき、卒業後も常に変わらず私共を見まつてくださる倉田先生、越水先生、梅田先生の温顔にほのと暖かい気持ちになり、



「ますます青春」 —三期会ご報告—

「秋晴れで残る面差し三期会」

吉田源三郎先生

小林典子

いつもあたたかでなごやかな三期会です。

紅葉には少し早い十月三日、宝塚若水で八十名が集いました。八十歳を越えて舞録



卒業四十五周年 記念大会（六期生）



卒業四十五周年を迎える、十一月二十日ヒルトン大阪にて記念大会を開催した。受付開始前の五時頃より、次々と懐かしい顔が集い、開宴の六時には、出席者約八十名のほぼ全員が揃った。

会は、北さんの司会により、まず物故者の冥福を祈り黙祷から始まった。次いで尚和会会长である萩野君よりお祝いの言葉があり、金原君の乾杯の音頭により歓談に入つた。

出席者は、それぞれ三年時のクラス別に設けられたテーブルに着き、ホテル心づくしの料理を味わいながら、久

手により、全員で記念写真を撮った後、校歌を齊唱し、またの再会を約し、楽しい会もお開きとなつた。まだ話つきず、二次会へ流れた人もかなりいたようだ。

最後に、当日お祝いを頂いた皆様に心からお礼申しあげます。また、ヒルトン大阪

社長からも葵花を寄贈して頂

き、会場に文字通り花を添え

て頂きました。併せてお礼申しあげます。

（萩野・金原）

「還暦祝い」報告

高九期 安浦 晴

豪華客船で食事をしながら若き日の思い出を…と、昨

年、六月六日に高校九期の還暦祝いが、復興なった神戸で大阪など地元はもとより東京、神奈川など各地から総勢六十六名が参加して盛大に行われました。当日は天候にも恵まれ、港で記念撮影後、緑

めながら正午過ぎに神戸港を出航、波静かな瀬戸内海を世界最長のつり橋「明石大橋」を目標としてスイスイ…。



船内ではお酒が進むにつれ、青春時代の思い出や近況話で、時間のたつも忘れる時間が経つにつれ、あちこちテープルへの移動もあり、楽しく過ごすうち、あつという間の感じで閉会の時間が近づく。終わりに、小塩君の手により、全員で記念写真を撮った後、校歌を齊唱し、またの再会を約し、楽しい会もお開きとなつた。まだ話つきず、二次会へ流れた人もかなりいたようだ。

最後に、当日お祝いを頂いた皆様に心からお礼申しあげます。また、ヒルトン大阪

社長からも葵花を寄贈して頂

き、会場に文字通り花を添え

て頂きました。併せてお礼申しあげます。

（萩野・金原）

高校十六期 三十五周年同期会報告

新井 哲夫

昨年十月十六日恩師三名

の出席を仰ぎ、約一〇〇名

の参加をもって開催された。

そのほとんどが同期会から二

次会に参加し、三次会に至る

夜中まで延々と若さを誇示

し、青春の気をおおいに発散

させた。翌日保津川下りを楽し

み、京都の街を散策し、嵐山

では念願であった亡き友の冥福を祈り、五年後と還暦時の集いを約束して散会した。

同期会の開催には現在の認識に加え、過去への回帰と

未来への願いが込められていく。現在が霞のかなたに飛び去り、なつかしき過去に舞い戻り、そこから未来へと飛翔する。人類ゆえの時間認識とはいうものの、心が遊び、心が舞うにはあまりに短い時間である。私達はもつともっと自己主張したいと思つてゐる。もつともつとお互いをわかりあいたいと思つてゐる。もつともつと何かをしたいと思つてゐる。もつともつと多くのことができると思つてゐる。時間よ止まれ。まさに「時間よ止まれ！」である。

世代を超えた心のつながりが同窓会であり、桜塚高校の尚和会である。その辯の確ともいふべき尚和会報が全員に配布されなくなつた。「同期会には出たいが同窓会はち



松宮先生送る会

高十九期 海老 一夫

「よつと……」という声が聞こえるなかで、会費納入者のみへの尚和会報配布は、会員との尚和会との間をますます疎遠にするばかりでなく、同窓会に対するばかりでなく、同窓会のものとの【死】を意味する「死」を意味するのではないだろうか。尚和会の運営における発想の転換を願いつつ、尚和会の更なる発展を望んでやまない。（継続は力）であり（若い力は無限）であると考えるのは、あながち我々だけではないと思うが。



生（60）を務める「松宮学級同窓会」が同年三月二十八日、大阪市北区の大坂ヒルトンホテル・明石の間で行われた。

大阪教育大を卒業、六四年（昭和三十九年）に高校教師になられて最初の赴任先が桜塚高校で、教え子第一号が十九期生だった。担任は一年九組、二年九組、三年四組で、今では白髪もちらほらの五十歳の紳士、淑女三六人が出席した。

「還暦記念」の赤いセーターを贈られた松宮先生は「桜塚に来ることになり、最初の面接が尚和会館で、学生服で来たことを今でも覚えていました」とあいさつ。当時の校舎はまだ木造で、映画やテレビで話題になった「青春とはなんだ」のロケ地そつくりの学園風景の思いで話。苦手？

だつた数学の授業にはあまり生（60）を務める「松宮学級同窓会」が同年三月二十八日、大阪市北区の大坂ヒルトンホテル・明石の間で行われた。



触れられなかつたが、クラブ活動ではバーレーボール部を指導され、懐かしい話が次々に披露された。

松宮先生は今後、「自由人」として余生を送られる予定だつたが、その教育と学生に対する厳しさと優しさはまだまだ青年。九九年春から私立立教光八尾中学校・高等学校（太阪）へ赴任された。また、

は定期的に開催の予定。
各組の連絡先は次の通り。

中谷博【一年】

豊中市曾根東町六十二
電話〇六一六八六二一〇九二

豊中市緑丘一三三二
電話〇六一六八四八一六五八九

【二年】
岡本(刈谷)みどり

電話〇六一六八四八一三八五
志賀順子

電話〇六六八五一〇九六八

大岩正明

電話〇六六三一九九〇
安井裕
大阪市淀川区木川東
一一二二一〇一〇
電話〇六四八〇五二五六八

昭和三十四年卒業（高十一期）
四十周年同期会報告

○クラブだより○

「三畠」端

高二期 高谷 善雄

二十二期あたりで実活動が途絶えた母校山岳部ですが、OB会は健在です。後藤敬直先生(97)を最年長に武井錠一、内田彰、相澤昂諸先生と三期から十九期までのOBがメンバーです。一九六七年六月の第一回から一九九九年十二月の会で五十七回を数えました。

すが、各自身辺の諸会合にな
い「モノ」がこの会にあり
分かれる時には「また集まる
うぜ、元氣で」というよろ
びと期待を与えてくれる会をな
感じているのは私だけではな
いでしょう。

京都・下賀茂神社、糺の森で
一九九九年五月二十日



に山岳部はどの領域でも肩身の狭い存在になつて います
が、私たちの O.B 会がかくも
長く、数多く開かれるのか、
先生方の求心力がます第一で
すが、やはりかつて青春を燃
焼させた山を含む自然への因
いを断ち切れない者のみが持
ち合わせる「ロマン」が、そ

女子ハンドボール部
顧問 村尾亮

女子チームは四十六期生以来ほぼ隔年ごとに部員ゼロが続き、「来年、新入生が入部して来なければ潰れるぞ」と言いながらなんとか綱渡りで存続しています。ただ平成二十一年度は順番からいえば新入部員ゼロの年だったのですが幸いにも七人の入部者がおり、今年度に限っては二年生十四人と合わせて計二十一人の大所帯で活動しています。

そのため「人數を揃えた者」として勝ち運に恵まれ、一昨年秋の新人大会以来、北

では男子約五〇チーム、女子約四〇チームとなり、かつての半分以下になっています。桜塚高校の男子チームも二年生（五十三期生）が五人、一年生（五十四期生）一人の計六人で、公式戦には水泳部員を一人借りてなんとか出場しております。

「ム戦術を云々する前に、まず部員を七人確保してクラブを存続させることができ、そのままで上位進出につながるという意味です。十年前までは大阪全体で男女とも一〇〇チームを越えていましたが、現在ムを越えていましたが、現在

A black and white photograph capturing a dynamic moment during a basketball game on an outdoor court. A referee, dressed in a striped shirt and dark pants, stands on the left side of the frame, gesturing with his arms as if signaling a play. Several players are in motion on the court, some appearing to be dribbling or shooting the ball. The court is enclosed by a chain-link fence. In the background, there are buildings, trees, and power lines, suggesting an urban or semi-urban setting.

性癖を持つてゐるようです。プロック予選の四位で中央大会に進めば、初戦はスパークシードと呼ばれる強豪私学と当たります。これらの私は全国の中學から優秀選手をスカウトし、全国でもベスト4以上に入る実力を持つて

中央大会に五回連続で進出しております。これには部員たちの日々の努力ももちろんありますが、合わせて顧問の功德としか言いようのないクジ運の良さも味方しており「抽選会の強豪、桜塚」とも呼ばれています。

昨年の夏、初戦は豊中高校に一〇対〇で完封勝ち、準決勝は福島女子に三対二十一で大敗、三位決定戦は枚方高校に十六対一で大勝と両極端の戦績でした。どうも我がチームは顧問に似て、相手が強いと萎縮し、弱いと見るや完膚無きまでに叩き潰すという性癖を持つてゐるようです。

プロック予選の四位で中央大会に進めば、初戦はスペーシードと呼ばれる強豪私学と当たります。これらの私は全国の中學から優秀選手をスカウトし、全国でもベスト4以上に入る実力を持つて

います。四天王寺高校と対戦した時は二対四十一で敗れました。

またこれらの強豪私学を除いて中央大会に進出して来る府立高校を見てみると、ひとつのが共通項に気が付きま



「陸上競技」部

顧問
松下
勇

長年顧問として指導され
てきた中田勝利先生が、本校

多くの学校でのクラブ活動が、低迷している昨今、本校陸上部も例外でなく、部員の減少が目立つようになり、淋しい気もしますが、現有勢力で、部員は毎日のメニューを消化し、自己の目標に向かって活動をしております。以下本年度の主だった成績（地区大会突破以上）を報告します。

第52回 大阪高等学校陸上競技対抗 選手権大会 大阪予選会 H11年6月4・5・6日

〈男子〉	〈女子〉
800m 永野 1'59"13 (7位)	100m 谷口(暎) 13"28
1500m 矢寺 4'16"05	800m 室 2'32"62
5000m 矢寺 16'53"71	3000m 室 11'15"63
走高跳 西郷 1m75	やり投 齋藤 28m78

第54回 大阪高校総体 H11年8月24・25・26日
| (女子)

〈男子〉			〈女子〉		
100m	多 田	12" 15	100m	谷口(暁)	13" 31
800m	永 野	2'03" 77		佐 竹	13" 98
	準)	2'00" 00		400m	谷口(寛)
	決)	1'57" 94			70" 08
1500m	矢 寺	4' 24" 27	800m	谷口(寛)	2' 52" 60
110mH	三 枝	21" 08	1500m	島 田	5' 32" 45
4x100mR	中瀬・多田 }	48" 72		砲丸投	中 元
	吉山・坂井 }				9m61
走高跳	中 濑	1m70	やり投	中 元	24m71

上記高校総体の結果

永野哲郎君が男子800mで、第32回近畿高等学校陸上競技対抗選手権大会(H11年9月25・26日／※：王子山陸上競技場)に出場し、1分57秒34というタイムで2位となる健闘を見せてくれました。これは来年度への全国インターハイへの足掛かりとなりそうです。

例年行われている豊中六校大会は、本年度より箕面高校と渋谷高校を加え、八校対抗戦としてスタート、女子優勝、学校対抗総合優勝を勝ち取りました。

「卓球」部

顧問
松岡
保夫

今年三月に卒業した女子

す。校名を列記すると三国
丘・八尾・天王寺・高津・茨
木・千里・春日丘などで、各
学区のトップの進学校ばかり
なのです。我が桜塚でさえ
「下から一番目」と言われま
した。

今年三月に卒業した女子部の活躍を披露しておきます。

かつては豊島・小路・箕面東・渋谷・池田北・東豊中にもチームがありました。ハンドボール部消滅の水没ライ

ンは、刀根山・桜場あたりの足元をひたひたと濡らし始めています。とりわけ男子部は本当に予断を許しません。

冒頭に書いた意味での「敗者」にだけはなりたくないものですが、二十世紀はどうなることやら……。

チーム大会において第七位となり、ベスト8のシード権を獲得し、一月の大阪高校総体においてもベスト8を守り、二年の五月の大阪高校選手権大会で初めての近畿大会出場（ベスト8）を目指して高津高等学校と対戦し、三対〇のスト

近畿大会（京都）の三回戦、原田一美・山本愛対宮田・佐々木（京都・北稜高）組との対戦

「女子バスケットボール」部

最後に、五十二期生の山本恵は近畿大会のシングルラリーで唯一の勝ち星を挙げ、石田朋子は一年一月のベスト8入りをかけた生野高校との対戦で、また近畿大会出場を決めた高津高校、住吉高校との対戦において貴重な一勝を挙げてくれました。この二人を含めた四人の活躍で三度も近畿の舞台に立つことができました。現在は五十四期生の吉村篠原、玉田百合香の三人が先輩のあとに續けとばかりに日々練習に励んでいます。

最後に、五十二期生の山本恵は近畿大会のシングルマッチで唯一の勝ち星を挙げ、石田朋子は一年一月のベスト8入りをかけた生野高校との対戦で、また近畿大会出場を決めた高津高校、住吉高校との対戦において貴重な一勝を挙げました。この二人を含めた四人の活躍で三度も近畿の舞台に立つことができました。現在は五十四期生の吉村篠原、玉田百合香の三人が先輩のあとに續けとばかりに日々練習に励んでいます。

スケットを続ける部員も増え、これからも活躍してくれるものと思います。

新チームも新人大会で勝ち進みベスト16に入り、二〇〇〇年も頑張ろうと思つております。

「ラグビー」部

顧問 渡辺宗治郎

平成十一年度大阪府優秀選手（十二名）に、五十二期宮本直子が選ばれました。

盛大に記念式典を催した本校ラグビー部、益々意気揚々と言いたいところであるが、高校ラグビー 자체が全国的な

定時制「サッカー」部

顧問 渡辺 義人

様々な形でラグビーを楽しみながら、現代社会から消えゆく「自己犠牲の精神」に触れることで、有為な社会人に育つてくれることを願っています。

いま、桜塚には大阪の定期賽会で優勝した。優勝杯、優勝盾の全てがあります。とにかく勝ちまくった一年間でした。九八年、九年の廿

近畿大会(6／25～27・奈良原二位)
二回戦 桜塚60—42郡山(奈良原二位)
二回戦 桜塚50—59夙川(兵庫二位)
選抜優勝大会府予選八月
二回戦 桜塚44—27梅花
三回戦 桜塚58—38千里
四回戦 桜塚90—35豊中
準決勝 桜塚53—25成蹊
決 勝 桜塚51—85薦英
(北地区三位で中央大会へ)

近畿大選プロック決勝五月
桜塚 63—37 大塚
順位決定リーグ

子化とクラブ離れの波を諸に受けていた。大会参加校数がここ二、三年の間、異常な勢いで減少して、昨年度は府内の大会出場校は四十七校となり、そのうち府立が二十一校にまで落ち込んだ。部員数不足の対策として少人数で公式戦出場を可能にすべく、十人制の部が設けられた。



ツカーフエスティバル連続優勝、九九年度大阪春季大会兼全国定通サッカー大会、秋の第四十九回大阪高等学校決勝戦で、その夏全国大会に出場もした科技関西情報に謄つたのがチームの自信を深めたと思います。それまでは一、二回で敗退していたのですから、春季大会ではその力を存分に發揮した戦いぶりでした。勝ち進む毎に勢いに乗り、準決勝のとき、前に飾られた

(井上) が「先生、あれ持つて帰つて全国に連れてつたるからな」とあたりかまわず大声で叫び、西野田工を3-0で下し、決勝でこれは強いと思つていた桃谷通信にゴールを与えず2-0で勝ちを決めたときの気分は最高でした。このチーム、お世辞にもまとまりがあるとはいえず、わがまま、マイペース、緊張感のカケラも、とは言い過ぎですが、各人が個性にあふれています。開会式には高速道路の事故渋滞で遅れ、vanaの方をよろしく」と言わされたものです。開会式には高斯の中で着替えての出場でしたし、一回戦はどしゃ降りの中での試合。富山の小矢部園芸に楽勝したものの、二回戦は炎天下で東京第一代表の芦川商業にPK戦負けでしたしかし、芝のグランドで大阪代表として戦つたことは選手達の心に残るものと思つています。



決勝で関西情報に延長の末勝つたのは、本当に彼らの実力としか言いようがありませ
ん。

猛スピードでゴールする高岡、頑丈が取り柄の高杉、傍若無人の藤田、
忍者のごとき横田、傍若無人の福田、テクニックの中川、
大学進学を果たした横田、完璧な守りの廣沢、浜中、とにかく明るいチームでした。
「行け、やれ！」としか指揮できぬ素人顧問としては、本当に嬉しい一年でした。
秋の総体で優勝した野球部、バスケット部とともに、桜塚を総合優勝に導いた功績は大きいものと誇らしく思っています。

お便りから

高女四期生

勝野 瑤子

高四期生
出席できないと思います
が(仕事で)、よろしくお願
い致します。お勤めご苦労様
です。

合田俊章

高七期生
富岡徹

久しぶりに東京からとこ
えの母校近くに帰りました。
た。玉石混同のクラスにあつ
ての石ころの私も充実してい
ました。

尚和会会報

平成12年5月1日

(13)

高七期生
迫田 雅子
来年の同期会は盛会にと
願います。

高七期生
迫田 雅子

んでいて、毎回「桜塚の卒業
生で良かった」と思います。

高七期生
富岡 徹

高十期生
下元(川内) 淳子
幹事の皆様のご苦労にい
つも感謝しております。毎時
の会報を楽しみに拝見させて
頂いておりますのに、会費、
協力金の納入が遅れて申しつ
ございません。会の発展を祈
願致しております。

高十期生
下元(川内) 淳子

拝啓 昨初秋、拙宅迄の
「尚和会会報」の御届を深謝
するに共に、十二年度会報費
一、〇〇〇円を郵便振替で、
本用紙に、拙私現況を
コンパクトにして記しておき
ました。二十六年振りに帰り
ましたので、今年度分にそれ
を御掲載賜ります様に御願い
申し上げます。

月二回、国際交流会館の
老人会に出席しております。

その度に出会いコンクリート
構造の「へい」は懐かしいで
す。桜塚ですねえ！

一色貞輝市長は一年先輩
で、男前のサッカー部員によ
く顔を覚えています。

今後、共々母校の為に協
力させていただきます。

高十期生
三河 勝彦

十月十六日、新大阪ワシ
ントンホテルでの高十一期ク
ラス会に卒業後初めて参加し
ました。青春時代を思い出す
頃々……。今も感激の余韻に
浸っております。時間が少な
く、話したいことがいっぱい
残りました。会の運営に当た
られた役員の方々、大変有り
難うございました。

校歌作詞者の永田俊夫氏
(京大名誉教授)は五期生で、
同夫人の悦子さんはクラスメ
イトで、秀才でした。御夫妻
は同じ大学です。十年発行の
会報にあつた、同会東京支部
長の井上眞一氏は、これもク
ラスマーテで、紅顔の色白の
彼も老顔になつてますねえ。

「時と潮は人を待たず
(Time and Tide waits no
men!)」です。
今後も書きますので御用
命を。健康には異々も。
いつもご苦労様です。読

高十五期生
上田(内藤) 幸子

高十五期の会長大畠光昭
さんや加集充子さん達のおか
げで、十五期会も昨年三十五
周年記念同期会が盛況に開催
され、楽しいひとときを過ご
せました。ありがとうございました。
また。

高二十七期生
松下 和子

生で良かつた」と思います。
命を。健康には異々も。

各期連絡先

期	氏名	電話	期	氏名	電話	期	氏名	電話
女1	越水ユリ	06-6852-8755	高29	山沢健二子	06-6885-0370	定15	北浦島治二	06-6333-4833
女2	北川富美子	0798-74-3024	高30	木村慶香世子	06-6853-9213	定16	森前中	06-6857-6219
女3	松尾郁子	06-6336-1765	高31	榎竹伊都子	06-6393-7216	定17	飯田島田	06-6855-8451
女4	小林三七子	0797-71-1064	高32	池田伊清人	06-6332-4076	定18	中野原谷	0727-22-8153
女5	加藤恵美	06-6872-6248	高33	池田本口	072-894-1848	定19	飯饒児	06-6855-3440
女6	青木操子	06-6843-2552	高34	山川道昌	0727-29-6099	定20	西田	0727-21-1124
女7	黒木操子	06-6854-5432	高35	安藤道博	06-6832-7930	定21	喜山	06-6862-1946
女8	田中陽子	06-6844-1570	高36	高堀道繁	06-6623-6801	定22	喜山	06-6850-2955
高1	中村達也	0727-21-3901	高37	堀須浅坂	06-6841-0598	定23	日暮	
高2	安菊美	06-6852-4117	高38	崎嶋康美	0727-52-6441	定24	喜山	
高3	谷中探吉	06-6314-0550	高39	須崎和介	06-6862-6896	定25	大山	06-6862-7083
高4	宮中信郎	06-6855-5372	高40	坂口大紀	06-6303-4831	定26	片山	06-6843-6443
高5	一川輝	06-6852-4859	高41	東横江子	06-6371-5696	定27	稻山	0727-28-0955
高6	森色崎	06-6852-3962	高42	横倉実夫	06-6854-0026	定28	真寒	06-6385-6190
高7	安田充司	0727-53-9518	高43	安藤隆	06-6302-2184	定29	天涯	06-6607-0580
高8	森田果則	06-6872-3329	高44	倉松隆	06-6855-7278	定30	天涯	06-6333-5761
高9	安唐渡	06-6855-4486	高45	栗山敬亮	06-6833-9179	定31	立花	
高10	唐田渡	0727-52-4548	高46	飯沼亮	0727-99-5953	定32	水田	
高11	田中渡	06-6852-2923	高47	原崎孝	06-6303-2655	定33	立	
高12	谷中光一	06-6855-5858	高48	崎村修	06-6333-2749	定34	清浜	0727-61-3323
高13	細田彦彦	06-6849-6879	高49	中岡拓	06-6399-6762	定35	部	06-6864-6366
高14	吉田裕理子	0727-51-5687	高50	岡村幸也	06-6391-7523	定36	浦	
高15	大畠昭子	06-6841-8135	高51	波田也	06-6393-9104	定37	本	
高16	中務公子	06-6858-4509	高52	石田幸彦	06-6853-2162	定38	宮田	
高17	福本育馬	06-6333-6636	定3	上野二員	06-6852-7122	定39	田	
高18	福本悟	06-6843-1336	定4	橋幸夫	06-6854-0234	定40	永	
高19	奥田敏輝	06-6843-9397	定5	木伸	06-6864-2452	定41	阪	
高20	山中清利	0727-51-4408	定6	大高	06-6862-5752	定42	野	
高21	山登志恵	06-6924-3544	定7	木大	0722-50-6595	定43	塩	
高22	平裕一	06-6855-2482	定8	高大	072-844-2311	定44	田原	
高23	後藤二	06-6373-7380	定9	木谷	06-6844-0473	定45	口	
高24	梅田純	06-6329-6309	定10	大長	06-6852-0333	定46	鳥	
高25	原寿子	06-6849-9986	定11	永井	06-6852-0475	定47	押	
高26	金江裕之	06-6852-1224	定12	篠澄	06-6843-5737	定48	大岡	
高27	木谷孝志	0726-27-9059	定13	中杉	0727-28-1497	定49	桑野	
高28	市田士	0595-52-0715	定14	杉土			大	

平成12年5月1日

尚和会報

平成十一年度会報年会費協力金

◆協力金をありがとうございます◆
(金額は納入合計額。千円未満の納入会員は省略させていただきました。)

●旧職員

員は省略させていただきました。

了

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

